

平成29年4月20日、子ども達の安全を守るために、地域でできることについて政策秘書課職員と話をした内容です。

## 千葉県の事件

千葉県我孫子市で起こった、見守りボランティアを行っていた人物が、児童を殺害した事件は、あまりに残念でした。

全国の見守りボランティアから、「活動しにくくなった」「子どもに声を掛けづらくなった」等の意見が出ているそうですが、少数の人の悪意のせいで、雨の日も風の日も、活動いただいている多くの見守りボランティアの方々が、肩身の狭い思いをされることがあってはなりません。

また、最近の報道で、学校内であいさつをすれば不審者と思われたいことを逆手にとって、校内で盗みをしていた人が捕まったという事件も目にしました。

こうした一部の人のせいで、学校や保護者が閉鎖的になって、子ども達が地域の人達と触れ合う機会が奪われてしまっはならないと思います。

この二つの事例から、本市においても、あいさつや声掛けを躊躇している人もいるかもしれません。

しかし、私は、あいさつや声掛けは、絶対に止めてはいけないと考えています。

今回の事件を通して、あいさつするだけの関係では不十分であり、あいさつにプラスして、大人達が「お互いのことをよく知る」という、もう一歩踏み込んだ関係を築くことでしか子ども達の安全は、守れないことを私たちは実感したのではないのでしょうか。



最近、市民の方から、「市役所では職員があいさつをしてくれたり、場所が分からず困っていると声を掛けたりしてくれる」とお褒めいただくことがあります。

しかし、私はまだ不十分だと思っています。というのは、職員同士がすれ違うとき、お互いに会釈をしたり、「お疲れさまです」と声を掛け合ったりすることができていないからです。職員同士で、いざ、何か事業に協力して欲しいと思ったとき、普段は知らんぷりの人に頼むことができるのでしょうか。

地域でも職場でも、お互いにもう一歩踏み込んだ関係を築いていくことで、自分が住みやすい、働きやすい環境を作ることができると思うのです。

～市長の話を聞いて～

今回の我孫子市の事件は、あまりに衝撃的で、逮捕の一報を見た時、言葉が出ませんでした。多くの人が同じ気持ちになったはずです。

地域で子ども達を守るためには、大勢の人の目で、常に誰かが子ども達を見守っている状況を作るしかないのかもしれませんが。登下校の時間に合わせて散歩をしたり、例え車で通勤していても、子ども達の周りに不審な人がいないか見るようにしたり。見守りボランティアという形でなくても、きっと誰にでも、何かできることがあるはずですよ。